



McSYL

マックシールプレス (2017年)

「ヘルニアセンター」のご紹介 鼠径（そけい）ヘルニアに対して 腹腔鏡手術による最新の手術方法を導入



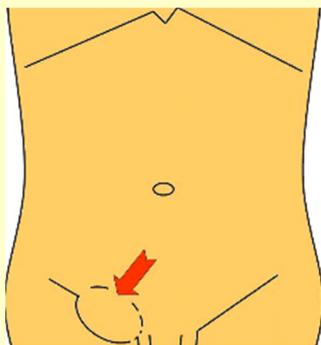
「鼠径ヘルニア」って？

太ももの付け根を鼠径部と呼びます。鼠径ヘルニアは太ももの付け根から内臓（主に小腸）が脱出てくる病気で一般的には脱腸と呼ばれています。

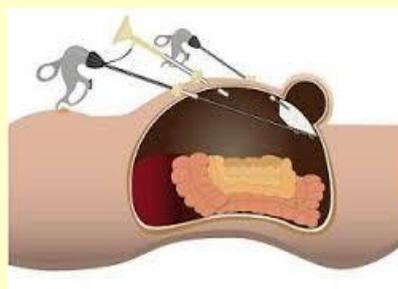
最初は立った時やお腹に力を入れた時だけふくらみ、手で押さえると戻りますが、次第に戻りにくくなり、腸がはまり込んで戻らなくなった場合は、痛みや嘔吐などの症状がでます。これをヘルニア嵌頓（かんとん）といい、緊急手術が必要になります。

手術が唯一の治療法であり、筋膜の弱った部分にメッシュを張って補強します。

手術は大きく分けて2つの方法があります。一つは前方切開法といって、鼠径部を5cm程度切開しヘルニアを修復します。もう一つは腹腔鏡手術（TAPP法）で、鼠径部を切開せず、おなかに3か所小さな孔をあけ、ヘルニアを修復します。腹腔鏡手術の方が、よりからだにやさしい手術であり、きずが小さく、痛みも少なく、再発率も少ないため、手術数は年々増加しております。



鼠径ヘルニアの症状



腹腔鏡手術（TAPP法）



メッシュを張って補強



Organization Accredited
by Joint Commission International

マックシール異病院は関西初のJCI認証病院です。

JCI (Joint Commission International) とは医療現場での「患者の安全」「医療の質」などを中心とした、「世界で最も厳しい」と言われている国際的な医療施設評価機構です。

詳しい資料を受付前カウンターに設置しておりますので是非お持ち帰り下さい。

ヘルニアセンターの特徴

当院では最新の腹腔鏡手術を積極的に行っています。

「2 mm」の極最小の器具を使用することで、一般的に行う腹腔鏡手術よりも、さらに小さなきずでの手術が可能となります。きずを極限まで小さくすることで、痛みもより和らぎ、より早期の社会復帰へとつながります。また手術後のきずはほとんど残りません。きずをより小さくすることで、様々な工夫が必要となり、熟練した外科医のみが手術可能となります。当院では日本内視鏡外科技術認定医の資格を持った専門医が手術を担当することで、より安心・安全で高度な内視鏡手術を受けて頂くことができます。



実際の手術の様子



手術後のきずも目立ちません
(術後1ヶ月)

ヘルニアセンターでより小さなきずの腹腔鏡手術を受けて頂けることで、一人でも多くの患者様に幸せが届けばと考えております。ヘルニアの症状でお困りの方はぜひ「外科」へご相談下さい。

プロフィール

■日本外科学会専門医

日本内視鏡外科学会技術認定

■趣味：野球（阪神タイガースの大ファンです。）

ヘルニアセンター長
中木 正文 医師



～ 心臓血管科のご紹介 ～

Q & A 「例えば、どんな症状を治してくれるの？」

「胸が苦しくなる」、「胸が痛くなる」、「動悸がする」、「息苦しい」、「心電図がおかしいと言われた」、「歩くと足が痛くなる」、「足が数日間でむくんできた」などは心臓血管科での治療対象となる可能性があります。

心臓血管科の病気は、症状が出てから病気の進行が速いものが多く、病院にたどり着くまでに亡くなってしまいう方もおられます。特に急性心筋梗塞、不安定狭心症、急性心不全、重症不整脈、大動脈解離、大動脈瘤、肺塞栓などでは最初の数時間以内の適切な初期治療の有無が生死を分けます。

高血圧、脂質異常症(コレステロールが高い)、糖尿病、喫煙、心臓病の家族歴がある人がなりやすいといわれています。心臓血管科の病気が少しでも心配な方、胸に症状がある方は迷わず外来受診をお願いします。

Q & A 「もし、心筋梗塞になったら？」

緊急性、即応性が命の循環器治療を行う為に、当科では 24 時間救急診療体制をとっており、夜間、休日も含めて可能な限り緊急カテーテル治療（経皮的冠動脈形成術）を行っています。当院では、緊急・予定も含め、池田市内でもトップクラスの症例数を施術しています。虚血性心疾患（狭心症や心筋梗塞）の治療であるこのカテーテル治療は、新しい装置へバージョンアップすることで、従来に比べてより安全に治療を受けて頂けるようになりました。

(さわやかで優しい) 医師陣



森田 Dr. 蓑原 Dr. 石河 Dr. 土谷 Dr.

バージョンアップされたカテーテル装置



「骨折治療センター」の特徴を紹介

その1、専門医指導のもと手術を行っています。



骨折の治療を専門とする医師は少ないのが現状です。骨折治療の研究と実践においてはスイスのグループ（AO グループ）が世界的に研究を重ね、現在はその考え（AO 法）が外傷骨折治療の Gold Standard となっています。当院ではそのグループに所属している医師の指導のもと、種々トレーニングを積んだ医師が骨折治療に当たっています。

その2、手術は十分な術前計画のもとに行います。

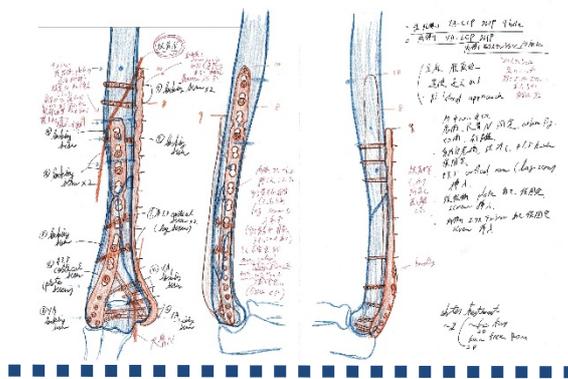


骨折は様々な部位に起こります。そして同じ部位の骨折でも色々なタイプがあり、年齢によっても治療方法は変わります。医療器械も日々進歩し、骨折のタイプにより適切な固定器械を選択するため骨折治療では特に手術前の計画が大切です。当院では全例に術前計画として作図を行い、手術に臨むメンバー全てが同じゴールを目指し手術に臨むようにしています。

その3、手術前・後の安全にも気を付けています。



入院、手術においては看護、リハビリなど多くのスタッフでのチーム医療が大切です。当院では入院後早期よりリハビリ担当者を決定し綿密にリハビリの計画を建て、これらのスタッフで毎週回診を行っています。人口の高齢化に伴い高齢者の手術も増え、この10年で当科での手術は90歳以上が400例を超え100歳以上も10例を数え、いずれも無事に手術を終えています。高齢者の方は様々な合併症がある場合も多く、他科と密に連携を取り術前評価、術後合併症に備えています。



しっかり手術！！
術後早期より
リハビリを
がんばり
ましょう！

骨折治療では、レントゲン・CTなどの検査で、しっかり病態把握。
入念に術前作図・シュミレーションを行い最適な手術で早期退院を目指します！

骨折、けがでお困りの場合は整形外科にご相談下さい。

